



COLLEGE WOMEN'S ASSOCIATION OF JAPAN

CWAJ annual report 2016-2017



APRIL 2017

会長からのメッセージ

日頃は CWAJ の活動に温かいご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。2016 年の当会の活動報告および 2017 の予定をお知らせいたします。

振り返ってみますと 2016 年は CWAJ にとりまして大変幸運な年だったと言えます。毎年恒例の秋の版画展を国内で開催せず海外展のみを催すのは異例のことでしたが、皆さまのご支援のおかげで期待を上回る成果を上げることができました。

2015 年秋に東京と神戸で催された第 60 回 CWAJ 現代版画展が、翌 2016 年の 6 月から 10 月まで、米国ケープコッドのファルマスにあるハイフィールド・ホール & ガーデンスにおいて開催されました。

オープニング・セレモニーは 6 月 23 日、美しい庭園に仕つらえた大きなテントで開かれ、多くのゲスト、日本から訪れた多数の CWAJ 会員および海外会員とその家族が見守る中、ボストン総領事代理の薄井次郎氏とハイフィールド・ホールのエグゼクティブ・ディレクター、ピーター・フランクリン氏が開会を宣言し、乾杯の音頭をとられました。『還暦—60 年の軌跡』展は、CWAJ の活動を理解し、熱心に支援してくださったハイフィールド・ホールの皆様のおかげで、地元はもちろんボストンのテレビや新聞でも取り上げられ、大成功を収めました。東京では、東京アメリカンクラブにおいて特別版画展『Intimate Dimensions—小品の中の世界』が 9 月 27 日から 3 週間開かれ、小作品ならではの魅力が予想以上の反響を呼びました。

また 10 月にはやはり東京アメリカンクラブで CWAJ アート・ガラを初めて開催し、本格的なオークションに挑みました。ガラの成功により、CWAJ 奨学金に必要な収益をもたらすことができました。その上、参加した方々にもおいしいお食事とワイン、魅力的なエンターテインメントを楽しんでいただくことができました。

今年は第 61 回 CWAJ 現代版画展が会場を変え、10 月 25 日から 29 日まで代官山のヒルサイド・フォーラムにて開催されます。また併設展は東京アメリカンクラブのフレデリック・ハリス・ギャラリーにおいて 9 月 26 日

から 10 月 15 日まで開かれる予定です。皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。

今年も引き続き、一般社団法人 CWAJ の会長を務めさせていただくことを光栄に存じます。海外展、特別版画展、アート・ガラがすべて成功裏に終わりましたのも、ご支援、ご寄付をお寄せくださいました個人、法人そして版画家の皆様のおかげと深く感謝しております。CWAJ は 1949 年の創設以来、女性の高等教育を支えてまいりました。すべての奨学生がこれからも更なる社会進出を遂げてガラスの天井を打ち破り、より良い世界を創ることを願っております。CWAJ 奨学生は皆、遠大な夢を持っています。皆さまのご関心とご支援こそがその夢の実現を可能にします。今後とも CWAJ の活動へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

CWAJ 会長 福岡 美雪

CWAJ アート・ガラ

CWAJ では初の試みとなるアート・ガラが 2016 年 10 月 8 日に開催され、大成功を収めました。会場の東京アメリカンクラブに集った 180 余人の参加者は、ディナーとワインをお供に、著名作家のご遺族から寄贈を受けた版画やその他の美術品、稀少アイテムを揃えたオークションに参加し、ライブショーを楽しみました。ラジオや TV でお馴染みのジョン・カビラ氏がライブオークションの進行役を務め、CWAJ の活動への協力を参加者に呼びかけると、それに応えて大勢の方々が、福島支援奨学金や福島の子供向けプログラム「あそびじゅつ」のためのクラウドファンディングに競って手を挙げる光景が見られました。

胸躍る「鼓童」の打楽器パフォーマンス、宝塚のスター、峰さを理氏の歌のショー、そして会員でもある高野京子さんの楽しい司会で、アート・ガラは思い出に残るイベントとなり、一晩で 760 万円ものご寄付を集めることができました。賞品をご寄贈くださった方々、ご参加の皆様、出演者の方々のご協力に、心から感謝申し上げます。



アート・ガラでのライブ・オークション

第 61 回 CWAJ 現代版画展

ヒルサイドフォーラム（代官山）

2017 年 10 月 25 日（水）

— 10 月 29 日（日）

2017 年、アートをリードする街 代官山から新しい一歩を踏み出します。

会期も 5 日と長くなりました。お誘いあわせのうえ、ぜひお出かけください

*

併設展 *Chiseled Variations*

東京アメリカンクラブ

フレデリック・ハリス・ギャラリー（麻布台）

2017 年 9 月 26 日（火）

— 10 月 15 日（日）

8 人の作家による多様性に富んだ木版画約 30 点を心ゆくまでお楽しみください。

*

第 61 回 CWAJ 現代版画展プレビュー

奨学生支援の夕べ

東京アメリカンクラブ

2017 年 10 月 5 日（木）

*

神戸展

神戸外国倶楽部

2017 年 11 月 15 日（水）

— 11 月 19 日（日）

第 61 回 CWAJ 現代版画展から選りすぐりの珠玉作品が勢ぞろいいたします。

CWAJ 米国展 『還暦—60年の軌跡』

2016年6月末から約4か月間、米国マサチューセッツ州の保養地ファルマスのハイフィールドホール・アンド・ガーデンズでCWAJ版画展が開催されました。CWAJでは版画展の大きな節目ごとに海外展を行ってきましたが、今回は2015年に東京と神戸で開催した第60回展を一年後にそのまま米国で催したものです。



記念すべき海外展のオープニングを祝おうと、CWAJ会員と家族168名が日本はもちろん世界各地から集まりました。式典には地元の要人、ボストン日本総領事代理を含む総勢約200名が出席しました。展覧会は大好評を博し、販売も含めてめざましい成功を収めることができました。地元はもちろんボストン

の新聞、雑誌、テレビに大きく取り上げられたこともあり、来場者が予想をはるかに上回ったため、開催期間も10月末までに延長されました。訪れた人たちは、視覚障害者が版画を楽しむための立体コピー図、CWAJの歴史や活動を説明したパネルや、福島の中学生在が制作した版画にも熱心に見入っていました。この版画展がきっかけとなり、近隣のウッズホール歴史博物館では「科学の絆：ウッズホールと日本展」が同時開催されました。またハイフィールドホールは夏の子ども向けに日本文化を学ぶアートプログラムを提供、日本をテーマにしたさまざまな音楽や料理のイベントも行われました。日本の版画と版画作家への深い関心と称賛、そしてハイフィールドホールの皆様の熱意と支援が、CWAJ海外版画展を大成功へ導くことになりました。

2016年特別版画展 『Intimate Dimensions —小品の中の世界』

恒例の秋のCWAJ現代版画展は、新たな飛躍を期して2016年はお休みすることとなり、初めての企画として、9月27日から10月16日まで東京アメリカンクラブのフレデリック・ハリス・ギャラリーで特別展版画展『Intimate Dimensions—小品の中の世界』を開催しました。通常のCWAJ版画展ではあまり見かけないような小品ばかりを多数集めたユニークな展

覧会は連日多くの観客を集め、家庭に飾りやすいサイズとして大きな販売成果を上げることができました。この特別展では、壁いっぱい飾られた小さめの作品が和やかで居心地のよい雰囲気を作り出し、会期が3週間とゆとりがあり会場もこじんまりしていたために、お客様と作家の方々との交流の機会も多く生まれました。期間中に行われた作品解説サービスも非常に好評で、楽しみながら版画への理解を深めていただく場となりました。

展示作品の中には、2013年ヤング・プリントメーカー賞の受賞者市野悠さんのリトグラフ1点と、2016年同賞受賞者大森弘之さんのメゾチント作品3点もあり、好評を博しました。

2017年秋には日本のアートをリードする街、代官山に会場を移し、装い新たに第61回CWAJ現代版画展を開催いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。

2017 CWAJ ヤングプリントメーカー賞 (YPA 賞)

1名 賞金 50万円

玉城 綾乃

沖縄県立芸術大学大学院2年
(2017年3月卒業)

賞金を使ってシルクスクリーンの道具や素材を買い揃え、研究成果を個展で発表する予定です。

福島支援プロジェクト

CWAJに福島県知事から感謝状

東日本大震災5年目の年に、思いがけないニュースが飛び込みました。CWAJが震災後ただちに始めた福島の復興支援プロジェクトに対し、福島県知事から感謝状を授与されることになりました。2017年4月12日の昼食会で、福島県立医科大学の丹羽真一教授による授賞式と講演が行われました。

相馬広域こころのケアセンターなごみ

CWAJは相馬地域にある「特定非営利活動法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」を法人正会員としてサポートしています。震災直後に「なごみ」に寄贈した医療用車両は、現在も訪問看護用として大活躍しており、CWAJでは2016年にも車両維持費を寄付しました。

CWAJ 福島支援奨学金

2012年に始まったこの奨学金制度は、福島県立医科大学看護学部および大学院に学ぶ学生を対象としており、すでに10名を超える受賞者が地元のコミュニティで看護師、助産婦、保健師として活躍しています。受賞者たちからは、CWAJの奨学金がどれほど大きな心の支えになったかなど、毎年感謝の言葉が寄せられています。2016年度は看護学部3年生および大学院の学生の2名の奨学生が選ばれて、それぞれに50万円が支給されました。2017年度も3名の素晴らしい奨学生が選出されています。

福島アート・プロジェクト

今年で3回目を迎えた子どものためのアグラートプログラム「あそびじゅつ」は、多摩美術大学の海老塚耕一教授の指導のもと、県内3か所の会場で開催されました。夏休みに入った7月末、海老塚先生と多摩美のスタッフ、10名以上のCWAJのボランティアが相馬市の中央児童センターと須賀川市の商工会議所の会場で、今年のテーマ「イスがキャンパス！なんでキャンパス？—イスに描いてみよう」の準備のため、即席の大工さんとなって椅子を組み立てました。両会場に集まった子どもの数は100名にものぼりました。プログラム終了時には白木の椅子が子どもたちの手でさまざまな色やデザインに塗られ、世界に一つの「自分のイス」に生まれ変わりました。



最後の会場となった福島県立美術館では、「ものの表面採集をして、描いてみよう」がテーマ。15名の子どもたちは、床や木の幹など美術館内外のいろいろな物に紙を当てて鉛筆やクレヨンでこすり、浮かび出てく

るいろいろな形に歓声を上げながら、見つけた図柄を組み合わせ独自のプロッタージュ作品を作り上げていました。

須賀川の子どもの版画がアメリカへ

CWAJでは、毎年福島県須賀川市で開催される「田善顕彰版画展」の田善賞受賞者2名を東京の版画展に招待しています。2015年には入賞作品20点が、ボストン郊外のケープコッドで開催されたCWAJ版画展60周年記念展の会場で展示され、訪れた多くのアメリカ人に絶賛されました。

子どものための英語プログラム

2016年は郡山市で4回開催され、計84名の子どもが参加しました。8月にはリオデジャネイロ・オリンピックにちなんでスポーツ関連のゲームや英語の単語を学び、「金メダル」を獲得した子どもたちは大喜びでした。12月のテーマは冬とクリスマス。雪だるまのお話を聞いたり歌やゲームを楽しんだり、サンタさんの衣装を着て、みな大満足でした。



リーダーを育てる CWAJ 奨学金

「CWAJ 奨学金をいただいたことは何よりも大きな自信となり、自分を変える力となりました。お返しに、いつの日か私自身が他の人々の生活をより良いものに変えたいと思います…（中略）…皆様の温かいお気持ちと誠意の灯を常に心に灯し続け、祖国に戻って必ず女性の社会進出のために貢献いたします」これは 2015 年度 CWAJ 東京アメリカンクラブ・ウィメンズグループ奨学金を受給した、ネパール出身のサマタ・タムラウ博士の言葉です。サマタさんは 2016 年 5 月の昼食会で講演を予定していましたが、家族にご不幸があり出席はできませんでした。しかし彼女の言葉には、リーダーとなって社会を変革し、自らの経験を社会に返したいという熱意が溢れており、まさに CWAJ 奨学金の精神を具現しているといえましょう。

新しい奨学生が紹介される 5 月の昼食会が、当プログラムに携わる者にとって最高の瞬間であることは言うまでもありません。しかし奨学生選考委員会の仕事は 8 か月前、前年の 9 月から始まっています。各部門のコーディネーターは選考委員たちに審査方法を詳細に説明し、膨大な数の応募書類を時間をかけて

公正・厳格に審査します。最終面接を行った後もさらに議論を重ねた上で、受賞者が決まります。こうして今年もまた、素晴らしい奨学生が選ばれました。専攻分野はヘイトスピーチの研究や公衆衛生学、音楽など、多岐にわたっています。

奨学生との絆を大切にしてきた CWAJ にとって、10 月 6 日に開催されたアート・ガラに、本年度奨学生だけでなく元奨学生も多数駆けつけてくれたことは、大きな喜びでした。中でも 2004 年度視覚障害学生奨学金を受けた中瀬恵里さんのスピーチは感動的で、多くの出席者の心を打ちました。

CWAJ の活動の中心となる奨学金プログラムの運営は会員のたゆまぬ努力に支えられていますが、もちろん個人・法人の皆様からのご寄付や、毎年開催される CWAJ 現代版画展の純益なしには成り立ちません。おかげさまで 2016 年度は、視覚障害学生 2 名と福島県立医科大学看護学部および大学院の学生 2 名を含む計 9 名に奨学金を支給することができました。奨学生の詳細は下記をご覧ください。また福島支援奨学金については p.2 もご覧ください。

CWAJ へのご寄付については、p.4 にお知らせがございます。これからも皆様の温かいご支援の下に、プログラムをより充実したものに発展させられるよう願っております。

世界で活躍する CWAJ 奨学生



奈良橋 陽子
キャスティングディレクター
ハリウッド映画『ラストサムライ』
など



猪口 孝
新潟県立大学学長
国際政治学者



深川 由紀子
早稲田大学教授
国際経済学者



大胡田 誠
弁護士
著書『全盲の僕が弁護士
になった理由』



エヴァ・マホトカ
ストックホルム大学准教授
アジア・中東美術
日本美術キュレーター
としても活躍

2016 年度 CWAJ 奨学生



CWAJ 海外留学大学院女子奨学金

1 名 支給額 300 万円

佐々本 尚子（ささもと なおこ）

留学先：ハーバード大学 T.H. チャン公衆衛生大学院修士課程（米国）
専攻：公衆衛生

CWAJ 海外留学文化交流大学院女子奨学金

1 名 支給額 300 万円（この奨学金は国際交流基金の支援を受けています）

鈴木 明子（すずき あきこ）

留学先：ナポリ大学フェデリコ二世校建築科博士課程（イタリア）
専攻：建築学

CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金

CWAJ 佐野力奨学金

1 名 支給額 200 万円

べ、アラン（大韓民国）

在学：立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科博士課程
専攻：歴史学

CWAJ 外国人留学生文化交流大学院女子奨学金

1 名 支給額 200 万円（この奨学金は国際交流基金の支援を受けています）

ラジッチ、ドラガナ（ボスニア・ヘルツェゴビナ）

在学：筑波大学大学院人文社会科学部研究科博士課程
専攻：国際日本研究

CWAJ 東京アメリカンクラブ・ウィメンズグループ奨学金

1 名 支給額 200 万円

サマルビデ ウルダニス、アルバ ビクトリア（スペイン）

在学：早稲田大学理工学術院建築学博士課程
専攻：都市計画

CWAJ 視覚障害学生奨学金

2 名 支給額 各 150 万円

齋藤 玲奈（さいとう れな）

在学：桐朋学園大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻 4 年

吉田 裕司（よしだ ゆうじ）

在学：東北大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程
専攻：医学

CWAJ 福島支援奨学金

2 名 支給額 各 50 万円

福島県立医科大学看護学部、同大学院

四家 智恵（しけ ともえ） 修士課程 2 年

長澤 幹久（ながさわ みきひさ） 学部 3 年



コミュニティ・サービス

視覚障害者との交流の会 (VVI)

VVI が視覚障害者コミュニティのために先駆的な活動を続けて 42 年になります。CWAJ の社会貢献プログラムの中でも中核的なプログラムが「視覚障害者との交流の会」です。具体的には、日本盲人職能開発センターで週二回英語の授業を行い、視覚障害者たちの職能の向上を支援しています。また、もう一つの重要なプログラムは、視覚障害をもつ高校生の英検受験準備に、英語の模擬面接を行っています。

英会話イベント (ECG) は、視覚障害者の皆さんが CWAJ のボランティアメンバーや他の視覚障害者と英語会話の力を試したり、他の文化に触れる機会を得たりすることのできる人気のプログラムです。これら「視覚障害者との交流の会」の活動の情報は、約 150 人以上の視覚障害者に様々な媒体をとおして配布しているニュースレターでお知らせしています。

児童特別プロジェクト (CSP)

帰国児童のための英語サークルは約 40 年間活動をしてきましたが、この度このサークルを終了しました。それに代えて、変化するニーズに応え、CWAJ の教育への使命を継続するために、児童特別プロジェクトを新たに発足させました。2017 年より 2 つの新たなプログラムがスタートします。一つは西東京市の児童養護施設 聖ヨゼフホームで暮らす子どもたちへの初級英語教育、もう一つは港区の麻布子ども中高生プラザの小学生を対象にした「英語で遊ぼう」という放課後プログラムです。

外国人留学生との交流の会 (FSC)

留学先としての日本の大学、大学院の魅力が増し、入学を希望する外国人学生の数が増加しています。彼らの多くは首都圏に住み、研究室で学問研究に勤しんでいます。アルバイトが必要な者もいます。FSC では彼らに和やかな雰囲気での日本の習慣や文化に触れる機会を提供し、留学生生活を充実させることを目的に、歌舞伎鑑賞、企業見学、伝統武道見学、日本料理講習などの交流会を開いてきました。また留学生を自宅に招き、日本の生活についてアドバイスをするなど、個人的な世話もしています。



カルチュラル・プログラム

2016 年のカルチュラル プログラムは、毎年恒例の 2 回のイベントの他に CWAJ アート・ガラにも参加しました。

9 月 2 日には横浜美術館で米国初の印象派画家メアリー・カサット展を鑑賞。まず CWAJ 版画展の審査員を務めたこともある沼田英子主席学芸員のご厚意で、職業画家が少なかった時代に困難を乗り越えて意志を貫き、母子を温かい眼差しで描いたカサットについてレクチャーを受けた後、思い思いに展示を楽しみました。締めくくりは美術館内のフレンチレストランでランチでした。

第 2 回は 11 月 15 日、紅葉美しい北鎌倉円覚寺内の佛日庵で、琴と尺八のコンサートを開催しました。演奏者は琴が馬場信子さん、尺八が善養寺恵介さんで、古典から童謡、アベマリアまで幅広い 9 曲の演奏があり、秋の古都での心豊かな一日となりました。



プロモーション・イベント

ケント・カルダー教授特別講演



6 月には、ジョージ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究センター長のケント・カルダー教授をお招きし、センチュリーコート丸の内に『2016 年混迷する米大統領選と今後の日米関係』というテーマで講演していただきました。同教授は米国有数の日本通として知られ、日本政治や東アジアの政治経済について数多くの著作を出版されています。今回の講演会は二部制で、一部はメディア・経済界の方々、二部は CWAJ メンバーを対象に行われました。アメリカの選挙のしくみや大統領候補者選出の過程、さらには将来の政策についてなど、理解を深めることができました。カルダー教授の CWAJ へのご理解とご協力に深謝申し上げます。



アート・ガラでの鼓童パフォーマンス

ご寄付のお願い

CWAJ は年間を通して、CWAJ 教育・奨学金プログラムおよび福島支援プロジェクトへのご寄付をお願いしています。皆様からのご支援が、日本と世界の若者たちの勉学の夢をかなえ、福島のコミュニティに力を与えます。ご寄付のお申込みは下記担当者までお願いいたします。

CWAJ は、国際交流基金の特定寄附金制度を活用して、自国外の大学院で学ぶ女子学生への奨学金の拡充を図っています。この制度を通してのご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは下記までお問い合わせください。寄付・支援者担当 駒越美樹、ローラ・マロリー donations@cwaj.org

CWAJ はこんな団体です

一般社団法人 CWAJ (College Women's Association of Japan) は、さまざまな国の女性たちが幅広い交流の中で友情を深めながら、首都圏を中心に教育・文化活動をおこなっているボランティア団体です。1949 年に日本人留学生への渡航費援助を目的に発足した小さなグループが、現在では約 20 国から集まった 450 名の会員を有する会となりました。全員が無償のボランティアとして毎年版画展やさまざまなイベントを開催し、その純益で奨学金を提供するほか、視覚障害者との英会話の集いや外国人留学生との交流会など、楽しみながら教育支援を進めています。活動は外国人と日本人が協力して、原則として英語でおこないます。CWAJ 入会についてのお問合せはこちらへどうぞ。

membership@cwaj.org

日本で会員になり、海外に帰国／転居した方には 海外会員の制度があります。CWAJ 海外会員についてのお問合せはこちらへどうぞ。

cwajoverseas@cwaj.org



CWAJ College Women's Association of Japan

一般社団法人 CWAJ

CWAJ センター

141-0021

東京都品川区上大崎 2-24-13-703

Tel/Fax 03-3491-2091

www.cwaj.org